

便利でお得に使いこなそう！ クレジットカード&電子マネー活用術

クレジットカードは 付帯サービスに注目

1人あたり約4枚保有しているといわれるクレジットカード。ご存知の通り、クレジットカードを使って買い物をすると、その代金が翌月の決められた日に、指定した口座から引き落とされる仕組みになっています。例えば、しんきんVISAカードの場合なら、毎月15日締め翌月10日払いが原則。このように、クレジットカードを使う際の大前提として、毎月何日までの利用なら、いつ、どの口座から引き落とされるかを把握しておくことが大切です。

また、クレジットカードの種類によって

は年会費無料のものもありますが、有料の場合でも一定の利用条件を満たすことで無料になるものがあります。例えば、しんきんVISAカード（クラシック）の場合、携帯電話料金をカード払いにすることで次回年会費無料になります。どういう条件で無料になるかはカード会社によって異なりますので、一度確認してみるとよいでしょう。

カードの付帯サービスとして、広く知られているのが、利用額に応じて発行されるポイントや貯めて、さまざまな景品と交換したり、他のポイントプログラムに移行したりできるポイントサービスです。公共料金や生命保険料の支払いもカード払いにしておくと、毎月着実にポイントが貯められます。

そのほかの付帯サービスとしてあると便

利なのが、国内旅行や海外旅行の際のトラブルを補償してくれる旅行傷害保険です。

これらの保険に別途加入すると、数万円の保険料がかかることもあるので、手持ちのカードにサービスが付帯されているなら積極的に利用しましょう。ただし、補償内容や補償金額はカードの種類によって異なりますし、旅行代金等をカード決済すると適用されるなどの条件のある場合がありますので、使う前によく確認しましょう。

車に乗る人なら、バッテリー切れやパンク、キーの閉じ込みなどのトラブルの際に駆けつけてくれるロードサービスを付帯するカードも魅力的です。しんきんVISAカードの中でも、ロードサービスVISAカードのように、高速道路の通行料金を後払いで精算するETCカードと一体型になったカードもあります。高速道路をよく使う人ならこうしたカードも使い勝手がよいでしょう。

【図表1】クレジットカードの概要の一例（しんきんVISAカードの場合）

年会費	有料。 ただし、一部対象カードは、毎月の携帯電話料金の利用料をカード決済したり、Vpass*登録後にWeb明細サービスを申込み、1年以内にカードの請求が6回以上あることで次回より年会費が無料となる制度もある。このほか年会費の割引制度もある。	
カードの締め日と支払い日	毎月15日締め、翌月10日（一部金融機関では8日）請求	
付帯サービス	旅行傷害保険	一部カードでは、旅行代金等をあらかじめカードで支払えば、国内旅行・海外旅行とも旅行中のケガや病気のアクシデントが最高2,000万円まで補償される。
	ETCカード ロードサービス	カード会員本人および家族会員より、ETCカードが申し込める。ETCカードとクレジットカードが1枚になった一体型は、ロードサービスが付帯されており、自動車の故障やトラブルに対応してもらえる。
	キャッシング サービス	キャッシング利用枠を設定することで、キャッシング利用代金をリボ払いで返済するキャッシングリボの利用が可能。ただし、所定の審査は必要。

*Vpass=VJグループ各社が発行するカード会員専用のインターネット総合サービス

ネットショッピングでの クレジットカード利用は慎重に

欲しいものを手軽に購入できるネットショッピングですが、クレジットカードを使って決済する場合には注意が必要です。

購入しようとするサイトが信頼できる会社の運営かどうかを確認するとともに、クレジットカード番号や暗証番号を入力する画面がSSL(注)で暗号化されていることも確認しましょう。クレジットカード番号や有効期限、カード名義がわかれば、他人に不正利用されるおそれがあります。クレジ

(注)通信がSSLにより暗号化されているサイトでは、ブラウザの右下等に鍵の閉まったマークが表示されます。

【図表2】主な電子マネー

	プリペイド/ポストペイ
Edy (エディ)	プリペイド (前払い)
Suica (スイカ)	プリペイド (前払い)
WAON (ワオン)	プリペイド (前払い)
nanaco (ナナコ)	プリペイド (前払い)
iD (アイディ)	ポストペイ (後払い)
QUICPay (クイックペイ)	ポストペイ (後払い)

生活の中でますます存在感を増しているクレジットカードや電子マネー。クレジットカードを使ってネットショッピングを楽しんだり、電子マネーを使ってスーパー・コンビニなどで小銭不要で買い物したりと、活躍の場が広がっています。そこで今回は、クレジットカードや電子マネーの基本と主なサービスの内容、賢く使いこなすコツについてご紹介します。

トカード情報が他人に知られないように細心の注意を払うことも重要です。

万一の被害を最小限にするために、利用限度額の低いクレジットカードをネットショッピング用とすることも一つの方法です。また、カード会社から郵送される利用明細は必ず開封し、身に覚えのない支払いがないかチェックしましょう。

少額の買い物に向いている電子マネー

電子マネーとは、現金を直接使用せずに、金銭的な電子データを使用して決済する、新しいお金の形態です。専用の読取機にかざすだけで、一瞬のうちに支払いが完了する電子マネーは、その便利さや手軽さが受けて、一気に利用者を増やしています。

日本では、支払い前にあらかじめチャージ(入金)する「プリペイド(前払い)」タイプが主流で、EdyやSuica、WAON、nanacoなどがあります。駅やコンビニなどにある端末や、クレジットカードなどから事前に入金しておき、利用する都度、その中から支払う仕組みです。入金できる限度額は各電子マネーによって異なりますが、おおむね2万円～5万円程度で、少額の買い物に繰り返し利用するのに向いているといえるでしょう。

一方、「ポストペイ(後払い)」タイプは、事前にチャージしなくても利用でき、後から代金を請求されるものです。クレジットカードに似た仕組みで、iDやQUICPayなどがこれに該当します。基本的に、対応するクレジットカードが必要になりますが、紛失や盗難の際には保険が適用されるので、セキュリティの面で安心です。

電子マネーの活用術

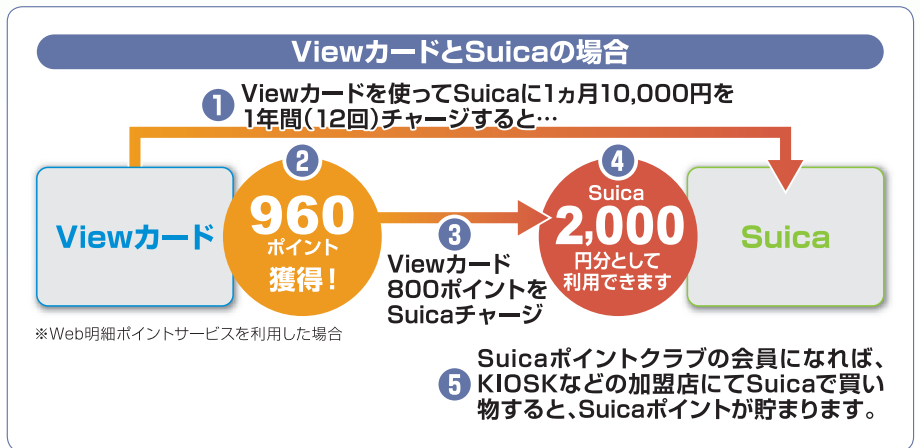
電子マネーの利用場面が増えているとはいえ、あらゆる店舗ですべての電子マネーが使えるわけではありません。自分がよく利用するスーパーやコンビニ、または駅で使える電子マネーを選ぶとよいでしょう。

通常、各電子マネーはそれぞれのカードが必要になりますが、電子マネー機能に対応した携帯電話、いわゆる「おサイフケータイ」対応機種なら、1台の携帯電話に複数の電子マネーを搭載することができます。

また、クレジットカード同様、利用額に応じてポイントが貯まる電子マネーもあります。スーパー、コンビニ、自動販売機など、今まで現金で払っていた買い物を電子マネーに代えるだけで、知らず知らずのうちにポイントが貯まります。貯まったポイントは、電子マネーに交換して買い物に使うこともできますし、提携先のポイントとの交換も可能です。

提携のクレジットカードからチャージすると、クレジットカードのポイントが貯まる一方、チャージした電子マネーを使うと電子マネーのポイントが貯まるので、ダブルでお得になります。

【図表3】クレジットカードと電子マネーのお得な活用方法の一例



一口メモ

【しんきん携帯電子マネーチャージサービス】

電子マネーへのチャージは、取り扱いのある加盟店の店頭から現金で入金したり、クレジットカードから入金したりするほか、預金口座から行うこともできます。

水戸信用金庫の「しんきん携帯電子マネーチャージサービス」なら、水戸信用金庫の普通預金口座から「おサイフケータイ」に、電子マネー Edyをその場でチャージすることができるので大変便利です。サービスを利用するためには、専用アプリのダウンロードが必要ですが、インターネットバンキングの契約は不要です。1回のチャージは、1,000円から25,000円まで(1,000円単位)。なお、チャージには1回あたり52円(税込)の手数料がかかるほか、パケット通信料もお客さまのご負担となります。



運営主体	おサイフケータイへの対応
ビットワレット	○
JR東日本	○
イオン	○
セブン&アイ・ホールディングス	○
NTTドコモ	○
JCB	○